

科目名		授業形態	担当教員名	
小児科学		講義	砂古口 雅子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
医療の進歩はめざましく、500g以下で出生した子ども達も延命できる時代となり、残念ながら障害が残る場合がある。従来であれば短命であった難病の子ども達も障害を持ちながら生存できるようになり、重症心身障害児や医療的ケア児は増加しています。また、身体的な障害は目立たないものの発達障害があって、学校での学習や対人関係が難しい子ども達も増えています。臨床現場で小児に携わるようになったときに子ども達の障害の背景にある疾患についての理解を深め、子ども達の生活障害を改善できる一助となるよう進める。				
授業の到達目標				
1. 小児の発育・発達の特徴を説明できる。 2. 各種小児疾患の原因や病態について、その病態と特徴および医学的対応について説明できる 特に①新生児・未熟児疾患②先天異常と遺伝病③小児の神経・筋疾患④発達障害とその周辺疾患⑤重症心身障害児と医療的ケア児⑥感染症や眼科疾患⑦虐待、について説明できること。				
授業計画				
回	内容			
1	小児科学概論（小児の成長・発育と発達、栄養と摂食、保健）、小児疾患の診断と検査・治療法			
2	新生児・未熟児の概念と疾患（新生児仮死、未熟児の神経学所見、異常症状など）			
3	先天異常と遺伝病			
4	復習①と小テスト①			
5	神経・筋疾患①脳性麻痺（まひの分類と症状など）			
6	神経・筋疾患②脳性麻痺（治療と支援など）			
7	神経・筋疾患③脊髄性疾患、筋疾患、てんかん、等			
8	復習②と小テスト②			
9	発達障害とその周辺疾患、二次障害			
10	重症心身障害児と医療的ケア児について			
11	復習③と小テスト③			
12	感染症、眼科疾患（視機能異常など）、児童虐待、事故 その他			
13	骨・関節疾患、循環器疾患（先天性心疾患、後天性心疾患など）、呼吸器疾患 その他			
14	総復習①			
15	総復習②			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	50%	終了試験の結果によって評価する		
レポート・課題				
小テスト	30%	問題を解答してもらい、その結果によって評価する		
平常点	20%	授業への参加態度や予習復習等によって評価する		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準理学療法学・作業療法学 小児科学 第6版	前垣義弘、小倉加恵子		医学書院	
自由記載	必要に応じて、プリントを配布する			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
写真で見る乳児の運動発達	木本孝子ほか訳		協同医書出版社、1998	
ボバース概念の実践ハンドブック	紀伊克昌ほか		パシフィックサプライ、2004	
自由記載	必要に応じて、紹介する			
備考				